

## 周産期ケアと両親教育に関する研究

—夫立会い分娩の経験別にみた育児への関わりについて(1)—

研究第1部 千賀 悠子 堀口 貞夫

研究第4部 水野 清子

研究第5部 望月 武子

研究協力者 曾根 秀子(嘱託研究員)

(総合母子保健センター保健指導部)

佐藤 禮子 中野 恵美子

松本 昌子 田那村 由香

### I 目的

出産準備教育や乳幼児のための家族への援助について検討する資料として、対象となる妊産婦とそのパートナー(夫)に次のような観点で意識調査を実施する。核家族化など価値観の著しく変化する現代の都市にあって、カップル(夫婦)が新しく参加する家族の一員を迎える時(子どもの誕生)、親としてカップルとして、そして一人の成人として、どのような意識の変化があるのか、また、どのような役割をとっていくのか。また、その役割遂行の過程でどのような意識の変化があるのかを調査し考察する。

### II 調査内容と方法

妊娠中より出産1年後の育児を通じての生活(パートナーや自分に対する態度や気持ちの変化や、子どもへの関わり、親としての考え方)に対する感じ方等についてカップル(夫婦)に郵送によるアンケート調査。

1988年度はパイロットスタディーとしては出産1カ月頃にアンケート調査。次年度以降は、1988年に調査をした同一カップルに出生6カ月・出生1年頃に調査をし、計3回継続的に資料収集し検討。これをもとに妊娠中から計4回以上の調査を予定し、妊娠中より育児をしている時の意識の変化などを考察していく。

<調査対象者の多くは、夫婦そして家族の形態をとっている。しかし、男女の有り様・考え方・生き方にも現代の価値観の多様性が影響しており、生活の共有者ではあるが一般的に考えられる夫婦・家族の形態をとらない人たちもいるので、現実の対象者の存在を既成の概念の言葉では十分に表現出来ないこの現代を把握する意味において、この報告では、表現が可能な限り夫婦をカップルと、夫・妻をパートナーと表すことにした。>

### 1 今年度の調査

①カップル(夫婦)で参加する出産準備教育を受講しかつ立会い分娩を経験したカップルと、このような立会い分娩を経験しなかったカップルでは育児や生活に対する考え方等に違いがあるのか、あるとすればどのような特徴があるのかを検討した。

継続的調査はまだ資料収集中なので、今年度は出生1カ月の調査より父親の養育態度や意識について報告。

対象は、カップルで参加する出産準備教育を実施している東京一愛育病院で1989年1月より出産した320例。なお、外国人および死産等の例は除いた。

回答数—カップルで回答208件、母親のみの回答数が19件。これは、父親が海外勤務あるいは長期出張中等の理由により資料が得られなかったものが含まれている。今後の継続的調査では資料が得られる可能性があるので、父親の資料の無いものを除外することなく不明として処理し、資料として計上した回答数は227例(回収率70.9%)として集計した。

### ② 調査内容

#### \*子どもへの関わり

子どもの世話、子どもとのふれあい(あやす、抱く)、子どもがむづかったりいつもと違う時の世話、子どもとふれあっている時や世話をしている時の気持ち(肯定的、否定的感情、親としての意識)、子ども好きかどうか。

#### \*育児について—父親として

父親と実感する時は、父親の役割で大事にしていきたいこと・どのような育て方をしたいか・現在どのようなことを大事にして育児をしているか・どのような子どもになってほしいか等。

#### \*新しい家族がスタートしてからの意識等の変化

パートナーの自分に対する気持ちや態度、パートナーに対する自分の気持ちや態度(精神的サポート、

役割の期待、役割遂行)、カップルで共有する経験の変化とその受容のプロセス、カップル(夫婦)の話合いや相談、自分自身の変化。

### III 結果

集計対象数等は表1に示す。前述した調査内容について、立会いの経験別および初めての子どもかどうかによって(パートナーの初産・経産別)差異が有るか検討した。なお、上記の<育児観>の内容については、出産1カ月頃の父親は、生活において実感をもちにくく観念的な回答の傾向があるので、この育児観等についてはその後の育児との関連(フォローアップ調査)においてどのように展開するのか検討していく。

#### 1 対象の背景(表1、表2)

今回立会いをした父親は初産・経産合わせて34%である。当病院の年間立会い分娩の割合は約35%で、初産・経産の割合も回答が得られた割合にほぼ等しい。よって、この回答にみられる立会いの割合は、当院の割合に近似しているものと考えられる。既に子どものいる父親の場合(経産)、以前立会いの経験があり今回立会わなかった父親は回答例にはいなかった。

父親の年齢層は両群間(立会い群、非立会い群)に差異は認められない。

#### 2 子どもへの関わり

##### ① あやしたり、抱いたりしているか(表3)

立会い群83%、非立会い群77%で両群間に差異はなく、多くの父親はあやしたり抱いたりしている。していない父親の理由は、母子ともに未だ実家で生活しているが約43%。多忙のため約43%、未だ何となく怖いのが約14%である。なお、母子が実家に帰っているものの割合は、両群間で差異はない。

② 赤ちゃんの名前を呼んだり話しかけていたりするか(表4) - 立会い群では89%、非立会い群では81%の父親が話しかけている。話しかけていない父親の割合が非立会い群に多い傾向が見られる。

③ 赤ちゃんと接したり様子を見ているのが楽しいか(表5) - 立会い群95%、非立会い群87%で、多くの父親は楽しいと思っている。有意差は認められないが、楽しく感じられない父親が非立会い群に3%いる。

##### ④ 赤ちゃんの世話をしているか(表6)

世話をしているとしたのは、立会い群では82%、非立会い群では66%である。世話をしていない父親の割合が1%の有意で初産の非立会い群に多い。世話は入

浴、おむつ替え、ミルクの準備等があげられている。

##### ⑤ 夜中にむづかたり泣き止まない時の世話(表7)

立会い群では38%、非立会い群では66%の父親が世話をしている。非立会い群の父親が他群に比して世話しているものの割合が1%有意で多い。

##### ⑥ くしゃみ等様子の一つ一つが心配になるか(表8)

全体で68%の父親が心配になっている。両群間等に差異はない。

##### ⑦ 順調に育っているかどうか心配になるか(表9)

全体で75%が心配と回答。両群間に差異はない。

##### ⑧ 赤ちゃんと過ごしている時の気持ち(表10)

各項目について5段階評価をし各項目の平均を表にした。<不安になる>・<犠牲になっている感じ>・<煩わしいと思う>という赤ちゃんにたいする否定的感情の項目では、初産の立会い群が非立会い群に比べ5%有意で否定的感情が少ない得点を示した。初産の場合、立会い群は非立会い群に比べ全体的に赤ちゃんにたいする肯定的感情の得点がやや高い傾向が見られる。両群間では有意差は認められなかった。

##### ⑨ 子ども好きかどうか(表11)

両群ともに<子ども好き>の父親が多く全体では81%が子ども好き。子どもが好きではないとした父親の割合は、子どもがいなかったものに比べ既に子どもがいる父親では少ない傾向がある。

#### 3 新しい家族がスタートしてからの生活や意識等の変化

##### ① 赤ちゃんが誕生してからの生活の変化に戸惑いを感じているか(表12)

両群とも戸惑っていないものの割合が多く、全体では83%の父親は戸惑っていない。両群間等に差異はない。

##### ② 日中の赤ちゃんの様子について、パートナーと話しかけるか(表13)

両群ともに話しあっているものの割合が多く、全体では85%の父親が話しあっている。しかし、経産の立会い群での<話し合わない>ものの割合が他群に比べ5%有意で多い。

##### ③ パートナーが赤ちゃんのことで心配・不安なときに相談にのるか(表14)

両群ともに相談にのっているものの割合が多く、全体で86%の父親が相談にのっており、両群間等に差異はない。

##### ④ 家事等の協力・役割分担をしているか(表15)

両群ともに協力しているものの割合が多いが、初産の非立会い群では<協力をしていない>という父親の割合

が1%有意で多い。

⑤ パートナーへの心遣いをしているか(表16)

両群ともに心遣いをしているものの割合が多いが、初産の非立会い群では<心遣いをしていない>という父親の割合が5%有意で多い。

⑥ 家事等の協力についての自己評価(表17)

<協力するのが当然である>というものは、初産の立会い群で多く42%、全体では35%。<自分としてはよくやっている、努力している>が全体で33%。

<仕事の都合でできなく残念>という父親が、初産の非立会い群で5%有意で多い。

⑦ 赤ちゃんが生れてからの生活で、カップルで共有する生活経験が増えてきたか(表18)

両群ともに共有する経験が増えてきたものの割合が多く、全体では75%の父親が増えてきたとしており、両群間等に差異はない。

共有経験が増えてきたことに関しては、考え方や感じ方がわかり満足しているが、やはりカップルで過ごす時間がなくそのことに関しては不満があるという回答が少なからずある。また、考え方や感じ方の違いに戸惑っているものもみられる。

⑧ 赤ちゃんが生れてからの自分自身について(表19)

パートナーとの親密性、共感性、共有性、役割意識、自己確信、達成への意欲等からなる項目を作成し5段階評価で検討した。<これから、やるぞという気持ちが出てくる><家族の期待に込めている><使命感を持っている>という役割意識、自己確信、達成への意欲を表わす項目では、初産では立会い群の方が非立会い群に比べ有意に得点が高い。他の項目では両群間等に顕著な差異が認められないが、初産では多くの項目で立会い群の方が非立会い群に比べ得点はやや高い傾向を示している。

#### IV 考察

あやしたり・話しかけをしたり・様子を見ていて楽しい・関わっている時の気持ちなど、子どもとの関わりの項目において、初産では立会い群は非立会い群に比べ肯定的・積極的な感情を持ち世話もよくしている傾向が示唆された。

また、子どもを迎えてからの新しい生活においても、生活への適応・赤ちゃんについての話題をするか・母親の養育の心配などの相談にのるか等、育児への関わりや、家事の協力・パートナーへの心遣い等の項目でも初産の立会い群は非立会い群に比べ積極的な傾向が示された。

夜中等に赤ちゃんがむづかった時の世話では、非立会い群の父親のほうが世話をしているものが多い傾向がある。これについては、日常の世話や家事の協力等が立会い群より少ない傾向があるが、その他の項目から立会い群に比べ顕著に非協力的あるいは子どもへの関わりが低いとは言えないので、普段の生活で十分に子どもへかかわれないことやパートナーに協力出来ないことから何らかの協力をしたい・しているという意識・行動ではないかと考えられる。

経産の立会い群では、日中の赤ちゃんの話題を余りしないと言う割合が他群に比べ多い傾向がある。これは、他の項目では積極的な関わり・協力の様子が伺われるので、子どもがほかにもおり子どものことについての話題は以前よりされており、帰宅してから日中の子どもの様子について意識的に話題にしているという感じがしないのではないだろうか。

非立会い群は、赤ちゃんの世話、家事の協力、パートナーへの心遣い、そして家事等の協力に関する自己評価でも仕事の都合で出来ないで残念あるいは余り家事はやりたくない等、子どもへの関わりや生活への関わりなどで、積極性がやや少ない傾向がある。

パートナーとの親密性、共感性、共有性、役割意識、自己確信、達成への意欲等、エリクソンのいう青年期から成人期へかけての自我同一性の発達課題よりみた指標では、初産では立会い群の父親は非立会い群に比べ多くの項目でプラスの得点が高く、役割意識・自己確信・達成への意欲では非立会い群のそれに比べ有意に高い。

経産では、立会い群は非立会い群に比べ有意に高い得点を示した項目はないが、全体的に役割意識・自己確信・達成への意欲の得点が高い。既に子どももおり、社会生活や家庭生活の経験が初産の父親よりあること、またわれわれが先に報告したように立会い分娩を選択する父親は積極的な態度があることなどからも、自我同一性の高い傾向が示されているものと考えられる。

子ども好きの項目では、子どもが好きではないとした父親の割合は、立会いの経験の有無よりも子どもがいるかどうかにより多少違いがみられ、子育ての経験が子どもへの好感の感情に多少なりとも影響を与えるのではないかと考えられる。

立会いの経験別にそして初・経産別に子どもが生れてからの1カ月間の子どもへの関わりや生活の変化に対する意識と行動について検討した。立会いの経験別より、子どもへの関わり方等いくつか差異が示唆された。しかし、これが立会いの経験が影響するものなのかどうかは、改めて検討する必要がある。

(表1) 対象者の分娩立会い経験

	今回立会い 経験あり	立会い 経験無し	計
初産	55 (36.4%)	96 (63.6%)	151 (100.0%)
経産	21 (27.6%)	55 (72.4%)	76 (100.0%)
計	76 (33.5%)	151 (67.8%)	227 (100.0%)

(表2) 立会い経験別×(母親)初経産別×父親の年齢

年 齢	立 合 い 群		非 立 合 い 群	
	初 産	経 産	初 産	経 産
～19	2	0	0	0
20～	0	0	2	0
25～	16 (27.1)	0	23 (24.2)	2
30～	27 (49.1)	10 (47.6)	38 (40.0)	20 (37.7)
35～	5 (9.1)	8 (38.1)	16 (16.8)	18 (34.0)
40～	3	0	8	4
45	0	3	5	4
不 明	2	0	4	7
(小 計)	55	21	96	55
計	76		151	

注) カッコ内は%。立会い群=今回立会った経験のある父親、非立会い群=今回も以前も立会った経験のない父親。なお、以前立会いの経験があり今回立会わなかった父親は無し。

(表3) あやしったり抱く

	立 合 い 群			非 立 合 い 群			計
	初産	経産	小計	初産	経産	小計	
よくしている	31 (56.4)	7 (33.3)	38 (50.0)	40 (42.1)	21 (39.6)	61 (41.2)	99 (44.2)
どちらかという と している	16 (29.1)	9 (42.9)	25 (32.9)	37 (38.9)	19 (19.8)	56 (37.8)	81 (36.2)
どちらかという と していない	3	5	8	11	8	19	27 (12.1)
していない	1	0	1	0	0	0	1
N . A	4	0	4	8	7	15	19
計	55	21	76	96	55	151	227

(表4) 話しかけ

	立 合 い 群			非 立 合 い 群			計
	初産	経産	小計	初産	経産	小計	
よくしている	36	9	45 (59.2)	50	20	70 (47.3)	115
どちらかという と している	13	10	23 (30.3)	28	24	52 (35.1)	75
どちらかという と していない	1	2	3 (3.9)	10	4	14 (9.5)	17
していない	1	0	1	0	0	0	1
N . A	4	0	4	8	7	15	19
計	55	21	76	96	55	151	227

(表5) 赤ちゃんの様子を見ているのが楽しい

	立 合 い 群			非 立 合 い 群			計
	初産	経産	小計	初産	経産	小計	
楽しい	44 (80.0)	16 (76.2)	60 (78.9)	70 (73.7)	31 (58.5)	101 (68.2)	161
どちらかという と楽しい	7	5	12 (15.8)	16 (16.8)	14 (26.4)	30 (20.3)	42
どちらかという と楽しくない	0	0	0	2	3 (5.7)	5 (3.3)	5
楽しくない	0	0	0	0	0	0	0
N . A	4	0	4	8	7	15	19
計	55	21	76	96	55	151	227

(表6) 赤ちゃんの世話

	立 合 い 群			非 立 合 い 群			計
	初産	経産	小計	初産	経産	小計	
している	28	8	36 (47.4)	31	17	48 (31.4)	84
どちらかという としている	20	6	26 (34.2)	34	17	51 (34.5)	77
どちらかという としていない	1	6	7 (9.2)	17	12	29 (19.6)	36
していない	2	1	3 (3.9)	6	2	8 (5.4)	11
N . A	4	0	4	8	7	15	19
計	55	21	76	96	55	151	227

カイ二乗 P&lt;0.01

(表7) 夜中、むづかった時の世話

	立 合 い 群			非 立 合 い 群			計
	初産	経産	小計	初産	経産	小計	
している	7	1	8 (10.5)	31	17	48 (31.4)	56
どちらかという としている	17	4	21 (27.6)	34	17	51 (34.5)	72
どちらかという としていない	15	12	27 (35.5)	17	12	29 (19.6)	56
していない	12	4	16 (21.1)	6	2	8 (5.4)	24
N . A	4	0	4	8	7	15	19
計	55	21	76	96	55	151	227

カイ二乗 P&lt;0.01

(表8) くしゃみなどの一寸したことへの心配

	立 合 い 群			非 立 合 い 群			計
	初産	経産	小計	初産	経産	小計	
心配になる	18	6	24 (31.6)	25	12	37 (25.0)	61
どちらかという と心配になる	18	6	24 (31.6)	41	17	58 (39.2)	82
どちらかという と心配して いない	12	6	18 (23.7)	19	15	34 (23.0)	52
心配しない	3	3	6 (7.9)	3	4	7 (4.7)	13
N . A	4	0	4	8	7	15	19
計	55	21	76	96	55	151	227

(表9) 順調な発育かどうか心配になる

	立 合 い 群			非 立 合 い 群			計
	初産	経産	小計	初産	経産	小計	
心配になる	19	9	28 (36.8)	50	29	79 (53.4)	107
どちらかという と心配になる	21	7	28 (36.8)	25	16	41 (27.7)	69
どちらかという と心配していない	4	5	9 (11.8)	9	3	12 (8.1)	21
心配しない	7	0	7 (9.2)	3	0	3 (2.0)	10
N . A	4	0	4	9	7	16	20
計	55	21	76	96	55	151	227

(表10) 赤ちゃんとお過ごしている時の気持ち

	立 合 い 群		非 立 合 い 群	
	初産	経産	初産	経産
いとおしい	1.7	1.6	1.7	1.8
不安になる	* 1.3	1.4	*0.8	1.3
イライラする	1.4	1.4	1.3	1.5
一緒にいたい	1.6	1.3	1.4	1.2
自信がない	1.4	1.5	1.3	1.6
気持ちが和む	1.5	1.5	1.5	1.5
犠牲になっている 感じ	* 1.7	1.4	*1.3	1.3
楽しい	2.0	1.4	1.6	1.5
かわいい	1.9	1.9	1.8	1.8
わずらわしい	* 1.6	1.3	*1.3	1.4
守ってやりたい	1.8	1.6	1.6	1.7
疲れを感じる	0.7	0.5	0.6	0.3
喜びを感じる	1.7	1.4	1.6	1.5
負担を感じる	1.5	1.3	1.3	1.5
エネルギーを 感じる	1.6	1.4	1.3	1.1
後には引けない 感じ	0.4	0.5	0.5	0.2

注) \*印 t検定5%有意  
 注) 得点は、そう思う(+2)、どちらかという  
 と思う(+1)、どちらともいえない(0)、  
 どちらかというと思う(−1)、  
 そう思わない(−2)  
 注) 否定的項目の得点は、  
 高得点ほど肯定的感情反応と  
 して換算してある

(表11) 子ども好きですか

	立 合 い 群			非 立 合 い 群			計
	初産	経産	小計	初産	経産	小計	
好き	28 (50.9)	10 (47.6)	38 (50.0)	50 (52.1)	33 (60.0)	83 (55.0)	121
どちらかという と好き	14 (25.5)	9 (42.9)	23 (30.3)	29 (30.2)	11 (20.0)	40 (26.5)	63
どちらかという と好きではない	5	1	6 (7.9)	8	2	10 (6.6)	16
好きではない	0	0	0	1	0	1	1
N . A	8	1	9	8	9	17	26
計	55	21	76	96	55	151	227

(表12) 生活の変化に戸惑いを感じているか

	立 合 い 群			非 立 合 い 群			計
	初産	経産	小計	初産	経産	小計	
戸惑っていない	33	14	47 (61.8)	41	30	71 (47.0)	118
どちらかというど 戸惑っていない	13	7	20 (26.3)	36	15	51 (33.8)	71
どちらかというど 戸惑っている	3	0	3 (3.9)	9	2	11 (7.3)	14
戸惑っている	1	0	1 (1.3)	2	1	3 (2.0)	4
N . . . A	5	0	5	8	7	15	20
計	55	21	76	96	55	151	227

(表13) 赤ちゃんのことに話し合うか

	立 合 い 群			非 立 合 い 群			計
	初産	経産	小計	初産	経産	小計	
話し合う	35 (63.6)	8 (38.1)	43 (56.6)	44 (45.8)	20 (36.4)	64 (42.4)	107
どちらかというど 話し合う	12	9	21 (27.6)	40	26	66 (43.7)	87
どちらかというど 話し合わない	1	4	5 (6.6)	3	2	5 (3.3)	10
話し合わない	1	0	1 (1.3)	0	0	0	1
N . . . A	6	0	6	9	7	16	22
計	55	21	76	96	55	151	227

カイ二乗 P&lt;0.05

(表14) 母親が赤ちゃんのことで心配な時、相談にのっているか

	立 合 い 群			非 立 合 い 群			計
	初産	経産	小計	初産	経産	小計	
している	36 (65.5)	9 (42.9)	45 (59.2)	37 (38.5)	24 (43.6)	61 (40.4)	106
どちらかというど している	10	10	20 (26.3)	47	22	69 (45.7)	89
どちらかというど していない	1	2	3 (3.9)	2	2	4 (2.6)	7
していない	1	0	1 (1.3)	0	0	0	1
N . . . A	7	0	7	10	7	17	24
計	55	21	76	96	55	151	227

(表15) 家事などの協力

	立 合 い 群			非 立 合 い 群			計
	初産	経産	小計	初産	経産	小計	
している	25 (45.5)	4 (19.0)	29 (38.2)	26 (27.1)	12 (21.8)	38 (25.2)	67
どちらかというど している	19	6	25 (32.9)	26	20	46 (30.5)	71
どちらかというど していない	4	8	12 (15.8)	23 (24.0)	12 (21.8)	35 (23.2)	47
していない	2	3	5 (6.6)	11 (11.5)	4 (7.3)	15 (9.9)	20
N . . . A	5	0	5	10	7	17	22
計	55	21	76	96	55	151	227

カイ二乗 P&lt;0.01

(表16) パートナーへの心遣いをしているか

	立 合 い 群			非 立 合 い 群			計
	初産	経産	小計	初産	経産	小計	
している	24 (43.6)	6 (28.6)	30 (39.5)	33 (34.4)	15 (27.3)	48 (31.8)	78
どちらかという としている	19 (34.5)	10 (47.6)	29 (38.2)	32 (33.3)	13 (23.6)	45 (29.8)	74
どちらかという としていない	3	4	7 (9.2)	19 (19.8)	16 (29.1)	35 (23.2)	42
していない	2	0	2 (2.6)	3 (3.1)	1 (1.8)	4 (2.6)	6
N . A	7	1	8	9	10	19	27
計	55	21	76	96	55	151	227

カイ二乗 P&lt;0.05

(表17) 家事などの協力についての自己評価

	立 合 い 群			非 立 合 い 群			計
	初産	経産	小計	初産	経産	小計	
当然のこと	23 (41.8)	5 (23.8)	28 (36.8)	23 (24.0)	13 (23.6)	36 (23.8)	64
努力している	17 (30.9)	4 (19.0)	21 (27.6)	22 (22.9)	8 (14.5)	30 (19.9)	51
仕事等で協力が できない、残念 仕方がないので やる	9 (16.4)	10 (47.6)	19 (25.0)	32 (33.3)	14 (25.5)	46 (30.5)	65
その他	1	2	3 (3.9)	2 (2.1)	4 (7.3)	6 (4.0)	9
その他	0	0	0	8 (8.3)	5 (9.1)	13 (8.6)	13
N . A	5	0	5	9	11	20	25
計	55	21	76	96	55	151	227

カイ二乗 P&lt;0.05

(表18) 共有する生活経験

	立 合 い 群			非 立 合 い 群			計
	初産	経産	小計	初産	経産	小計	
とても増えてきた	18 (32.7)	5 (23.8)	23 (30.3)	25 (26.0)	13 (23.6)	38 (25.2)	61
どちらかという と増えてきた	27 (49.1)	13 (61.9)	40 (52.6)	46 (47.9)	22 (40.0)	68 (45.0)	108
どちらかという と減ってきた	3	0	3 (3.9)	13 (13.5)	7 (12.7)	20 (13.2)	23
減ってきた	1	0	1	0	1	1	2
その他	0	0	0	1	1	2	2
N . A	6	3	9	11	11	22	31
計	55	21	76	96	55	151	227



(表19) 赤ちゃんが生まれてきてからの自分自身について

参考文献

- 1) 千賀悠子『父性意識について』、日本総合愛育研究所紀要第22集、1986
- 2) 千賀悠子『周産期ケアと両親教育に関する研究』日本総合愛育研究所紀要第23、24集、1986 1987

	立合い群		非立合い群	
	初産	経産	初産	経産
妻と一緒にいたい	1.5	1.3	1.5	1.3
妻と離れると	0.5	0.1	0.4	-0.2
自分に確信がある	1.1	1.4	1.0	1.3
自分に誇りがある	0.9		0.8	
決断ができる	1.3	1.7	1.3	1.5
責任が持てる	1.6	1.8	1.4	1.8
人生の目標がある	1.1	1.3	0.8	1.2
うまくやれる自信	0.8	0.7	1.0	0.7
人と気持ちを共有したい	0.2	0.0	0.1	0.3
人の話を素直に聞ける	1.0	1.1	1.2	1.2
子どものために頑張りたい	1.7	1.5	1.5	1.6
やるぞという気持ち がわいてくる	***1.5	1.3	***1.1	1.2
人のために力になれる	1.1	1.2	0.9	1.0
自分は思い遣りがある	1.0	1.2	1.2	0.9
自分は家族の期待 に応えている	* 1.1	1.1	* 0.8	1.0
使命感を持っている	**1.2	1.0	**0.7	1.0
妻と悩みを共有したい	1.6	1.1	1.4	1.4
妻と喜びを共有したい	1.8	1.5	1.6	1.5

\*\*\* t検定危険率1% (両側) 有意差あり  
 \*\* t検定危険率5% (両側) 有意差あり  
 \* t検定危険率5% (片側) 有意差あり